エルエルは、
long lifeの略です

ℒℒ
エルエル

http://www.kyorei.com

VOL.42 No.2
通巻163号

子どもの病気
～皮膚病～

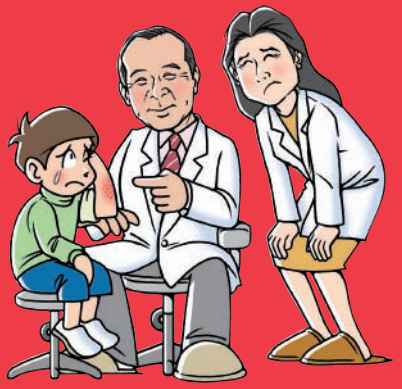
子どもの皮膚を守る

子どもの皮膚はきめ細かく弾力性に富み、スベスベしてとてもきれいです。特に赤ちゃんの皮膚はそっとなでてみたくなります。しかし、大人の皮膚と違い、とてもデリケートなため、いろいろな刺激で容易に皮膚のトラブルが起きます。本号では、子どもに多い皮膚病について解説しています。本号の内容を十分理解し、大切な子どもの皮膚を守ってあげてください。

監修　医療法人社団東品川クリニック　小児科　安座間　薫 先生

CONTENTS

子どもの皮膚はデリケート …… 3
アトピー性皮膚炎 …… 4-5
おむつかぶれ …… 6
皮膚カンジダ症 …… 7
虫刺され・とびひ …… 8
水いぼ …… 9
接触性皮膚炎 …… 10
じんましん …… 11
脂漏性湿疹・あせも …… 12
アタマジラミ …… 13
子どものニキビ …… 14
夏と冬のスキンケア …… 15
やけどの応急処置 …… 16



※かかりつけ薬局にご相談ください。

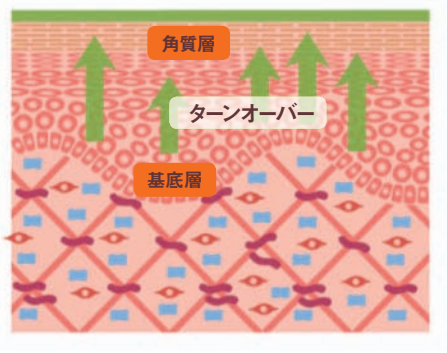
子どもの病気
～皮膚病～

子どもの皮膚はデリケート

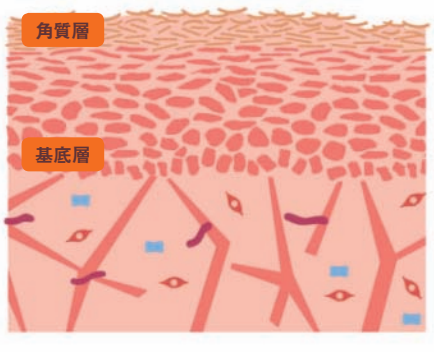
皮膚の潤いは、水分を保持する「角質層」と水分の蒸発を防ぐ「皮脂膜」の、二つの機能が正常に機能することで保たれています。そしてこれらは、外からの細菌、ホコリ、花粉、化学物質などの刺激物が、皮膚内部に侵入するのを防ぐ働きもしています。

子どもの皮膚は大人と比べると薄くて水分保持力が低く、皮脂分泌量が少ないため、バリア機能も不完全です。スベスベしているように見えても、実は乾燥しやすくトラブルを起こしやすい状態です。

カサカサ肌をきっかけに始まる皮膚トラブルを予防するためにも、毎日の保湿ケアを習慣にしましょう。



健康な肌



ダメージを受けた肌

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

アトピー性皮膚炎

症状

アトピー性皮膚炎はアレルギー性の皮膚炎です。皮膚の乾燥とかゆみのある湿疹が、慢性的に続くのが特徴です。

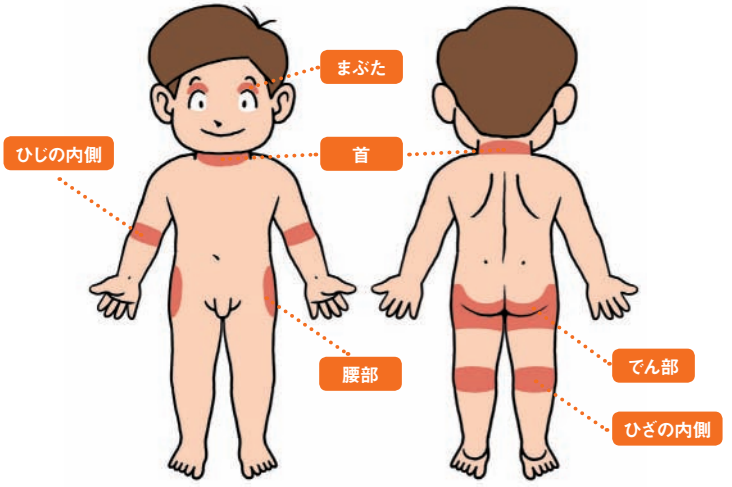
皮膚が乾燥し白っぽく粉を吹いたように見える、赤く小さな湿疹が見える、皮膚がただれてジクジクする、皮膚が硬くゴワゴワしてくるなど、症状はさまざまです。いずれの場合も強いかゆみを伴い、子どもは我慢できずにかきむしってしまいます。湿疹をかきこわすことで、さらに症状が悪化してしまいます。

また、良くなったり悪くなったりを繰り返すのも特徴です。

アトピー性皮膚炎には、アレルギー体質がかかわっている場合が少なくありません。しかし、アレルギー体質をもっていても、すべての子どもがアトピー性皮膚炎になるわけではありません。

アトピー性皮膚炎を発症する子どもの皮膚は乾燥しやすく、バリア機能が弱くなっている状態です。そのため、健康な皮膚には何でもない刺激にも反応し、炎症やかゆみが起きてしまいます。体質に加え、皮膚の乾燥、食べ物、汗や汚れによる刺激、ダニ、ハウスダストなどさまざまな要素が加わり、アトピー性皮膚炎が発症すると考えられています。

アトピー性皮膚炎・湿疹の発症しやすい部位



※かかりつけ薬局にご相談ください。

対処法

かゆみのある湿疹が良くならないなど、アトピー性皮膚炎が疑われる場合は、医師、薬剤師に相談しましょう。

対処としては塗り薬を中心に行います。ステロイド外用薬、白色ワセリン、保湿薬を症状と部位により使い分けます。かゆみが強いときは、飲み薬が処方されることもあります。

日常生活でのホームケアも大切です。ダニやハウスダストなどの原因を取り除くために、こまめに掃除しましょう。また、お風呂上がりに皮膚の乾燥を防ぐクリームやローションなどでスキンケアするのも重要です。

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

おむつかぶれ

症状

おむつを当てている部分が炎症を起こして、真っ赤にただれてしまうのがおむつかぶれです。特に、うんちが軟らかく、おしっこの回数が多い低月齢の赤ちゃんや、おむつのなかが蒸れやすい夏に多い皮膚トラブルです。また、下痢のときは、うんちがおむつのなかで広がるので、かぶれやすくなります。

最初はおむつが当たっている部分が赤くなるだけですが、ひどくなると赤いブツブツができ、重症になると、水疱ができて皮膚がむけ、ジュクジュクしてきます。

対処法

おむつをこまめに替えて、お尻を清潔に保つよう心がけましょう。おむつ替えのときは、すぐに新しいおむつを付けず、やさしく風を当てたり、乾いたガーゼで押さえて湿り気を吸い取るのもいいでしょう。

下痢のときはよく洗い流し、より清潔にすることが大切です。

なかなかおむつかぶれが治らない場合は、カビの一種であるカンジダ菌が原因である可能性も考えられます。自己判断せずに、医師、薬剤師に相談しましょう。

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

カンジダ性皮膚炎

症状

カンジダ菌というカビの一種に感染して、皮膚に炎症が起こる病気です。主にお尻や股、おむつに触れていないシワやくびれの間に、赤いブツブツや小さい水疱、膿疱ができます。

カンジダ菌は、普段から口のなかや陰部、皮膚の表面などに存在している常在菌です。湿度の高い梅雨や夏場によく起こります。

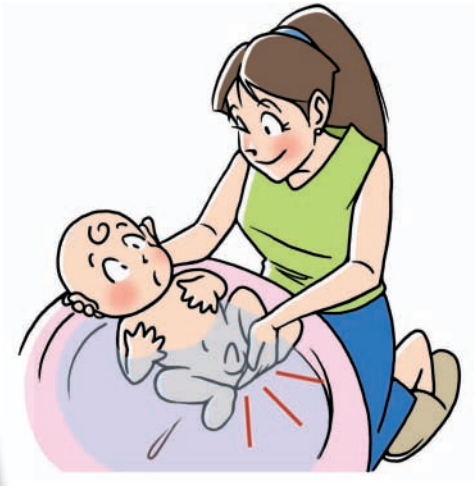
おむつかぶれの症状に似ているため、区別することが難しいです。なかなか治らないと感じたら医師、薬剤師に相談しましょう。

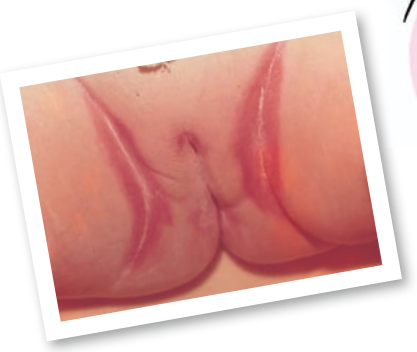
対処法

小児のカンジダ性皮膚炎は、抗真菌薬を炎症部分に塗ることで症状が改善します。だいたい２週間程度で改善するといわれています。

日常生活ではこまめにおむつを交換して、お尻を清潔に保つことが大切です。

ステロイド入り外用薬を使うと悪化するので、注意が必要です。





※かかりつけ薬局にご相談ください。

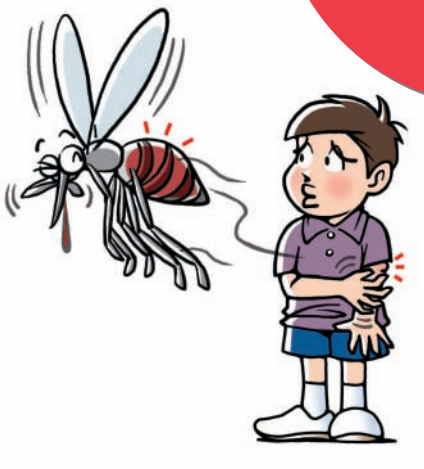
子どもの病気
～皮膚病～

虫刺され

手、足、顔などを蚊などの虫に刺されると、あとで赤く腫れます。腫れが3、4日続くことがあり、ひどいときには熱をもつこともあります。

患部を冷やしたり、ステロイド入りの外用薬や抗ヒスタミン剤入りのかゆみ止めを塗って対処します。

ハチに繰り返し刺されたときは、ショック症状が出る場合があります。少しでも不安がある場合は、救急車を呼んで医療機関を受診しましょう。



子どもの病気
～皮膚病～

とびひ

細菌が皮膚に感染して、強いかゆみを伴う水疱やかさぶたができ、手でかきこわすと、汁のなかの菌が次々にほかの場所に「飛び火」して、症状が全身に広がる病気です。

水疱が破れたあとは、ただれやかさぶたになり、自然に治りますが、医療機関を受診しましょう。抗菌薬と、かゆみを抑えるステロイド配合薬が有効です。

ワンポイント

他人への感染を防ぐために、完全に良くなるまではタオルの共用はやめましょう。他の部分にうつらないように、何度も石けんで手洗いし、爪は短く切り、清潔を心掛けましょう。

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

水いぼ

　ウイルスによる感染で起こる「いぼ」の一種で、直径 1 ～ 3mm 程度で白いポツポツを含み、表面は滑らかなのが特徴です。

　痛みやかゆみはありませんが、全身、特に脇の下などこすれやすいところに広がります。白い粥状の内容物を、周囲に付けないように注意してピンセットで一つひとつ取り除き、消毒します。数が少ないうちに医療機関を受診しましょう。

ワンポイント

　水いぼのウイルスが付いたタオルを使うと、家族にうつってしまうことがあるので、タオルの共有は避けましょう。

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

接触性皮膚炎

いわゆる「かぶれ」のこと。特定の物質に触れた部分の皮膚がかゆくなったり、水疱ができたりします。

植物、化学物質など原因はさまざまですが、赤ちゃんによく見られるのが、口の周りによだれが付いて、ほっぺたにブツブツができたり、首のところがただれたりというものです。金属類（おもちゃやボタン）や食べ物、草や粘土、衣類などでかぶれることもあります。

かぶれたときは、触れた部分をよく洗い流し、かゆみ止めの軟膏を塗ります。

ワンポイント

病院でのパッチテスト検査で原因物質が分かることもあります。

かぶれの原因が分かったら、接触しないことが大切ですが、もし原因物質に触れてしまったらすぐに洗い流しましょう。

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

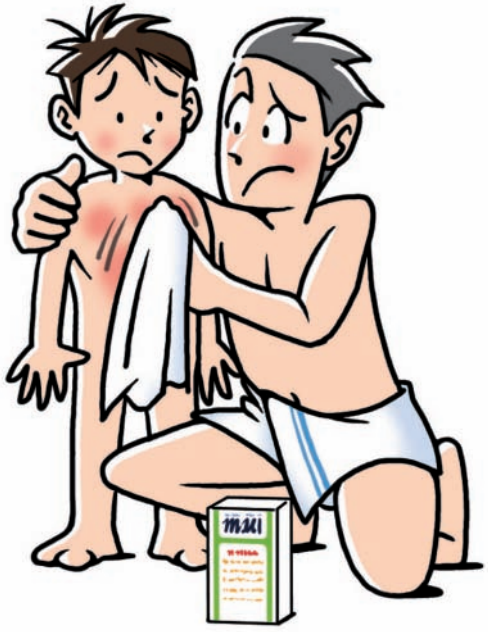
じんましん

皮膚の浅い層にさまざまな大きさの部分的なむくみやブツブツ、赤みが現われ、強いかゆみを伴う症状がじんましんの特徴です。

じんましんには、アレルギーに分類される急性じんましんと、慢性じんましんがあります。比較的短時間で症状が消える急性じんましんには、食べ物に反応する食物性じんましんや、医薬品などで起こる薬剤性じんましんがあります。また１カ月以上症状が続く慢性じんましんには、毎日食べる食品に含まれる添加物や、寒さ、温かさ、動物、化粧品、感染などによるものがあります。

原因物質が分かる場合は、それを取り除くことが大切ですが、じんましんは原因が分からないことが多いのも事実です。

かゆみが強いときは、冷たいタオルなどで冷やすと楽になることもあります。



※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

脂漏性湿疹

頭、顔、まゆ毛などに黄色っぽいフケのようなものができ、固まってかさぶたになったり、赤くなってジクジクしたりします。

これは皮脂がたくさん分泌されるために起こります。

かゆみやかさぶたがあるときは医療機関を受診しましょう。

乳児脂漏性湿疹は、成長とともに自然に改善するケースが多いです。

子どもの病気
～皮膚病～

あせも

夏場や、冬場の暖房が強い部屋、締め切った車内など汗をかく季節・環境にいるときに起きやすいです。頭や額、首、わきの下など汗のたまりやすいところに、赤色の細かいかゆみのあるブツブツができます。

子どもは体温が高く、新陳代謝が活発なため汗をたくさんかきますが、その汗が多すぎて、汗の腺の出口が詰まってしまい、炎症を起こします。

汗を洗い流し、涼しい環境におくこと、症状がひどいときはステロイド軟膏など炎症を抑える薬を塗ることで、対処していきます。

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

アタマジラミ

感染経路は、主に頭髪と頭髪の直接接触によるもの（帽子、くし、タオルなど）を共有することで感染するケースが一般的です。

感染は集団生活の幼稚園児から小学生に多く、かゆみの症状には個人差があります。遊んでいるときやテレビを見ているときによく頭をかくなど、普段とは違った行動がサインです。

もし感染してしまったら、頭髪を短くしてアタマジラミが生息できない環境にすることが一番ですが、市販の駆除用シャンプーで駆除するほか、すきぐしなどで丁寧に卵を除去してあげるのも効果的です。

着衣、シーツ、枕カバー、帽子等は温水（55℃以上）に10分間ほど漬ければ大丈夫です。清潔に洗濯してあげましょう。早期発見、早期駆除が大切です。

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どものニキビ

　小学生のニキビは、額を中心に出てきます。
これは思春期の始まりであり、適切な対応をすることで、
あとが残らないことが多いです。
　ニキビ治療で重要なのが、いかに皮脂による毛穴の詰まりをなくすか、
肌を健康な状態に保つかという点になります。過度の洗顔は、
皮脂を取り除きすぎるため、かえってニキビを悪化させる原因にもなります。石けんをよく泡立てて、
こすらず洗い、十分に洗い流すことが大切です。正しい洗顔を心掛けて清潔な肌を保つようにしましょう。また、ビタミン B 群を多く摂りましょう。

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

夏と冬のスキンケア

子どもの皮膚はデリケートです。皮膚トラブルを防ぐためにも、季節に応じた対応をしましょう。

夏　汗・紫外線対策

- シャワーで汗を洗い流す
- 虫に刺されたら、かゆみ止めを塗る
- 帽子をかぶる、日焼け止めクリームを塗る

冬　乾燥対策

- 保湿剤をこまめに塗る
（外出後、お風呂上がり、手を洗ったあと）
- 加湿をする

※かかりつけ薬局にご相談ください。

子どもの病気
～皮膚病～

やけどの応急処置

　やけどの手当てに大切なことは、冷たい水で十分に冷やすことです。衣服を着ている部分にやけどを負った場合は、衣服を着たまま流水で冷やします。衣服を脱ごうとするときや、直接水を当てたときなどに、やけど部分の皮膚も一緒にはがれてしまうことがあるからです。また、身体を冷やすときは、清潔なタオルやシーツなどで覆い、体温の低下を防ぎましょう。

　水ぶくれはつぶさないようにしましょう。傷を保護する役割をしてくれます。

　やけどの範囲の目安としては、やけどをした人の手のひらの大きさが、おおよそ体表面積の1% として判断されます。やけどの患部が 1% 以上ある場合は、十分に冷やしたあと、病院へ行く必要があります。

エルエル（Vol.42 No.2 第163号）平成23年6月1日発行　発行所：社団法人　日本薬局協励会　東京都渋谷区代々木3-46-16　TEL 03-3370-7171
http://www.kyorei.com　発行者：竹石　秀明　編集責任者：伊藤　豊　編集委員長：立木　麻衣子　編集委員：坂本　明子・水田　晴久・山田　修治
定価200円［不許複製］印刷・（株）祥文社